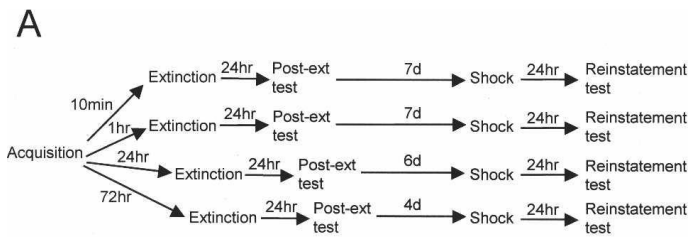


期待 59：恐怖の記憶の固定 9

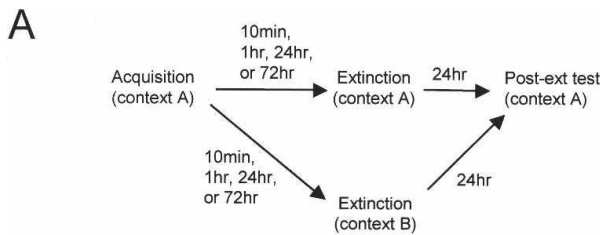
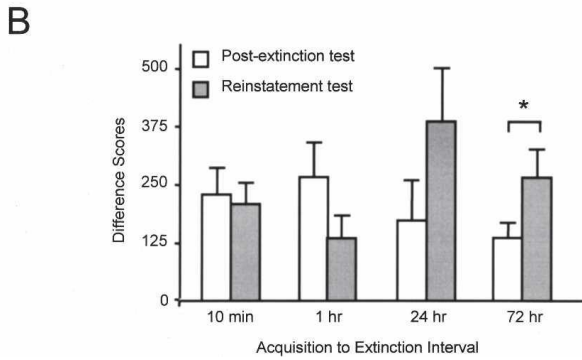
『期待 51』から、恐怖の経験から消去/retrieval までの時間の重要性を強調してきた。ここでいう retrieval とは、恐怖の条件づけの context に晒すことである。この問題を扱った論文を読んでみる。先ず、発端となった小嶋・今井 (1971) と類似の結果を報告した Myers et al. (2006) である。

Myers らの実験では fear の獲得後 10 min, 1 hr, 24 hr, 72 hr に消去した。そして reinstatement, renewal, spontaneous recovery, 最後に消去と retrieval の比較を行った。CS は光、US は電撃である。被験体はラット。

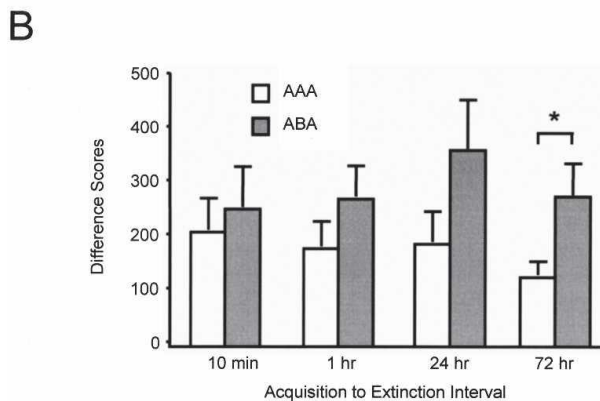


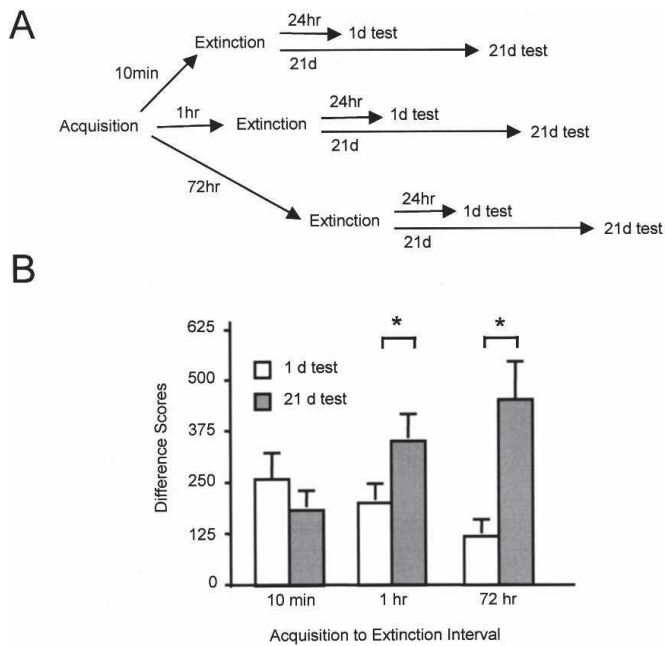
は電撃である。被験体はラット。

左の図は reinstatement の実験で、A が手続き、B が結果である。Reinstatement とは CS なしに US を単独で与えること。上記の時間の消去の 24 hr 後に消去の retention (Post-ext test) を調べた。獲得の 1 w 後に電撃を与え、翌日に test した。Post-ext test では 24, 72 hr 群で fear の回復がみられる。Post-exp test の結果は、むしろ 10 min, 1 hr 群で fear が強い傾向。



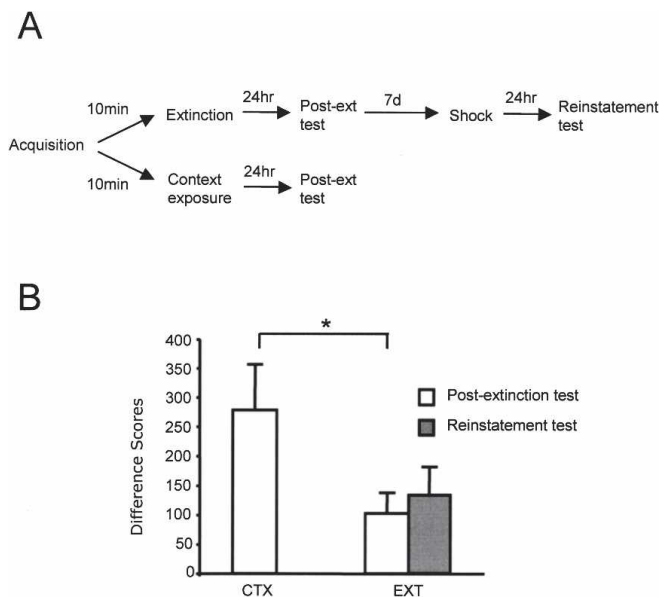
左の図は renewal の実験で、A が手続き、B が結果である。Renewal とは獲得とは異なる context で消去を行うこと。2つの context, A,B があり、獲得、消去、Post-ext test を AAA、ABA で行う条件を設けた。消去は上記の獲得後 4つの時間で行った。その結果、72 hr の群で、renewal の影響が出て、Post-ext test で fear が回復している。





左の図は自発的回復の実験の手続き (A) と結果 (B) である。自発的回復は消去の 1 d, 21 d 後にテストした。この実験では 24 hr の群はない。結果が示すように、1 d のテストでは fear の自発的回復は消去までの時間が長くなると減少の傾向、21 d のテストでは増加の傾向がある。1 hr, 72 hr の群で 2 つのテストの間に有意差がある。

これらの結果は、大雑把に、獲得と消去の時間が短いと fear の回復が少ないことを示す。



左の図は retrieval (context exposure) の実験で、手続き (A) と結果 (B) である。消去も retrieval も獲得後 10 min で行った。結果で重要なのは Post-ext test (白いバー) で、retrieval は消去程有効でなかった。

これらの結果は大筋において小嶋・今井 (1971) の結果と整合的だが、細かく見ると食い違う結果もあり、検討が必要だ。Myers らは 2 つの異なる消去 (学習) を考えている。これも検討課題である。